

姫路市総合福祉通園センター「ルネス花北」成人部機関紙

ゆうあいだより

№183

令和5年(2023年)11月20日発行

障害者支援センター
かしのきの里
在宅障害者デイ・サービスルーム
書写障害者デイサービスセンター
広畠障害者デイサービスセンター
障害者やすらぎルーム・障害者体育館
あぼしリサイクル事業所
ぱっそ・あ・ぱっそ

11月は日本の暦で霜月といいます。霜が降るほどに寒い季節になったということだそうです。霜が朝日にキラキラと溶けていく様子に清々しい一日の始まりを感じます。朝晩の寒暖差が大きく、服装の調整が難しい時ですが、鮮やかに色づいた紅葉の美しさを楽しみながら季節の移り変わりを感じたいものです。

今回のゆうあいだよりでは、特集「ソーシャルワーク実習の受け入れ」に加え、ボランティア養成講座、各事業所の活動等を掲載しています。是非、ご一読ください。

ゆうあいギャラリー



タイトル
「フルーツ&
ベジタブルアート」

書写障害者デイサービスセンター
共同作品

広く活動内容を知るために、利用者の写真を多く掲載しています。
掲載写真は、ご本人の了承を得たうえで使用させていただいている。

特 集

ソーシャルワーク実習の受け入れ

ソーシャルワーク実習ワーキングチーム

在宅障害者デイ・サービスルーム室長 堀内 泰介



ルネス花北成人部では、毎年、社会福祉士を目指す方たちのソーシャルワーク（以下：SW）実習（相談援助実習から名前が変わっています）を受け入れています。今回は、活動の内容や新しいカリキュラムへの対応などについてご紹介させていただきます。

（令和5年度受け入れ実績：8名 令和5年10月時点）

◇ ソーシャルワーク実習とは？

国家資格である社会福祉士は、平成元年（1989年）に初めての試験が行われ、養成課程は平成19年（2007年）につづいて令和3年（2021年）にも見直しが行われました。見直しに先立ち検討された中では、「地域共生社会の実現を推進し、新たな福祉ニーズに対応するためには、SW機能の発揮が必要であり、SWの専門職である社会福祉士が、その役割を担っていけるような実践能力を習得する必要があることから、現行のカリキュラムを見直し、内容の充実を図っていく必要がある。」との指摘がありました。それを受け、履修科目内容の見直しがあり、実践場面であるSW実習も180時間から240時間に増え、なおかつ異なる2以上の分野で行うことになりました。（例：高齢者事業所での180時間の実習と障害者事業所で60時間の実習）また、実践能力を身につけるために、より具体的な内容が提示されました。

<SW実習（240時間）の「教育に含むべき事項」>

- ・利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設、事業所、機関、団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成
- ・当該実習先が地域社会のなかで果たす役割の理解と具体的な地域社会へのはたらきかけ
- ・地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解などなど・・・

この3点を含み事業所の中で完結する内容だけでなく、地域社会とのつながりや展開を学ぶ10の項目が挙げられています。この項目は更に「SW指導・実習のための教育ガイドライン」の中で行動目標として「様々な人たちとあらゆる出会いの場面において、その人や状況に合わせて挨拶や自己紹介、声掛けを行うことができる」のような具体的な内容が示されています。実習生を受け入れた側とすれば、これまででは、資格を持っているとはいえ現場実践から何を伝えればいいのか、手探りで取り組んできたことは否めませんでした。実習を受け入れる職員が利用者に向き合う姿勢や心構えなどを抽象的に伝える実習になっていたようにも思います。今回の見直し後は、目的や方向性が明確になり、実習生、受け入れ側双方にとって良い改正だと感じました。



◇ 私たちの取り組み

受け入れる側は限られた時間の中で、多くの項目を体験し理解してもらうために、どのような場面でどのように伝えるかについて受け入れ前に準備が必要でした。また、それぞれの取り組みが各項目に適合し、求められる経験ができるのかについても確認する必要がありました。これらについて当ワーキングチームで日々のプログラムや活動とすりあわせ、一覧にして受け入れに臨みました。実習生に伝える内容が明確になり項目の関連性もわかりやすくなつたことで、同じ体験であっても多角的にとらえ、それぞれの結びつきについても説明することができました。これまで以上に座学形式の時間も増えましたが、実習生の捉え方を把握しながら進めることができ、体験と説明を併せて、より柔軟かつ効果的な実習になったと感じています。

【今年も実習に参加いただいた方からの感想を、一部ではありますが紹介させていただきます。】



☆支援員の視点を中心に気をつける点を学び、やりがいを感じ、多くのことを学ぶことが出来ました。学校でも学びを深め、福祉分野で働く人材へと成長したいと思います。24日間ありがとうございました。

☆職員一人ひとりが優しく、わからないことも丁寧に教えてくださり、また利用者さんと関わる楽しさや、やりがいを感じることができました。

☆利用者の皆様の自己実現を支援するための「専門職としての関わり方」、「アプローチの仕方について」学ばせていただきました。他機関や多職種連携が行われる場面にも参加させていただき、社会福祉士の役割を具体的に理解することができました。

☆相談援助者として利用者の支援方法を日々考え学ぶことができました。相談援助の奥深さを学べた貴重な実習となりました。

☆利用者と関わることも好きでしたが、ご家族と話す時間や地域の小学生と関わる中で福祉に触れることができる貴重な経験がすごく楽しくて好きでした。また、その中で社会福祉士とは何か、支援で重要な点、支援の中でのジレンマ等考えながら学ぶことができました。

☆利用者の方によってジェスチャーや筆談、声のトーンなど話し方、対応が異なり、相談支援に必要なことは対人能力が大切だと感じることができました。人と信頼関係を構築することは簡単ではなく、自分から精一杯に努力し、相手を受け止める心構えを身に付けたいと思いました。

☆悩むこともありましたが、職員の関わりを参考に少しずつ関係を築いていきました。利用者さんの方から話しかけて来られたり、笑顔で楽しそうにされている姿を見るうれしかったですし、実習をして良かったと思えました。

《参考》

- ・「ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に求められる役割等について」
／社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会（平成30年3月27日）
- ・社会福祉士養成課程のカリキュラム（令和元年度改正）
／社会・援護局福祉基盤課 福祉人材確保対策室
- ・ソーシャルワーク実習指導・実習のための 教育ガイドライン（令和3年8月改訂版）
／一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟
- ・社会福祉士実習指導者テキスト／公益社団法人日本社会福祉士会

養成講座

ボランティア養成講座

ボランティア係
障害者支援センター 渕上 玲

昨年度に引き続き今年度も、7月31日～8月4日、ボランティア養成講座を開催しました。障害のある方へのボランティア活動に関心がある学生や一般市民の方を対象とした当講座ですが、今回も好評で26名の方からの応募を頂き、体験日を当初の予定より1日増やして対応させていただきました。

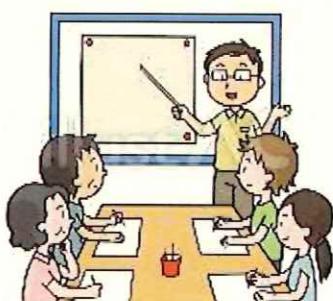
講座は2日間の課程で実施しました。

初日のオリエンテーションでは、施設の概要説明に始まり、障害に関する基礎知識やボランティアを行っていただくまでの注意事項をお伝えし、その後施設見学をしていただきました。

2日目は、現場体験の機会とさせていただき、1日に6～7名ずつの方を4日間に分けて、午前は児童施設で、午後は成人施設の各部署で受け入れさせていただきました。

応募頂いた方の年齢層は幅広く、高校生から70歳代の方までお越しいただきました。現場実習体験では、午前中は児童施設で、子供たちとプールに入ったり、午後の成人施設の体験では、体育館で運動するなど、一緒に楽しく活動していただきました。中には昼食に当施設の「caféあっと・ゆ～る」を利用された方もいらっしゃいました。体験終了後、振り返りの機会を持たせていただきました。皆さん目的意識をしっかりと持って臨まれていて、とても充実した時間を過ごされたことが伝わってきました。そして、全課程終了後、受講者全員に修了証を授与させていただきました。更に嬉しいことに、全員の方がボランティア登録をしてくださいました。講座受講以後、既にボランティアに来てくださった方もいらっしゃいます。

当講座を受講された皆さん、将来、障害のある方の地域生活を温かく見守っていただけるような存在となってくださることを心より願っています。



当講座を受講された方の感想の一部をご紹介します

- この障害を持っているからこういう性格と決まっているのではなく、自分の気持ちの伝え方や、明るい、静かなど、人によって違うと分かりました。
- 児童に対して何でもしてあげようと思っていたのですが、思っていた以上に着替えやトイレも自分の力で出来ていてすごいなと思いました。成人の方とお話をした時は、自分の方から沢山話してください、車のことをいっぱい教えていただきました。とても嬉しかったです。
- 働いている方全員が利用者さんに寄り添っていたのがすごく良いなと思いました。
- 小さな変化があると一緒に喜んだり、「良かったねー！」と声掛けしていたのがすごく良かった。（児童→何かが出来るようになる、成人→ジュースを飲んで笑顔になる etc.）
- 最初は子供たちの反応の意味が分からず困惑した場面があったが、職員さんのサポートもあってお陰で少しずつ反応の意味を捉えて、「こうしたいのかな？」と考えながら関わることが出来ました。
- 障害のある方と接する機会が少なかったため、実際に交流して障害者は私たちと何も変わらない生活者であるということを実感することができました。
- オリエンテーションで言われたことを思い出しながら参加しました。実際に会うと思ったとおりに出来なくてすごく戸惑ったけど、コミュニケーションが取れた時はすごく嬉しかったです。
- 障害ではなく、その人一人ひとりを見つめることが大切であることに気付きました。少し工夫をするだけで障害があっても過ごしやすい環境を作ることが出来ると思い、また、工夫の仕方やその人の特徴を私たち側がキャッチし、みんなが過ごしやすいように行動出来るといいなと思いました。
- 児童たちは可愛くて、成人部の皆さんには凜々しく作業されていて立派だなと思いました。
- 全ての（部署の）現場体験をしてみたいと思いました。（参加日数が増えてもよい）



活動報告

夏野菜を育てよう

書写障害者デイサービスセンター

支援員 前田 咲希美

書写障害者デイサービスセンターでは、様々なプログラム活動を行っています。その中に「育いく」というものがあります。これは、野菜の種まきや収穫、花壇の花植えや草抜きを通して、植物や自然に触れる体験をします。今回はその「育いく」での、夏野菜の収穫の様子をお伝えします。



3月末の利用者懇談会で、利用者の皆さんと植える野菜を決めました。夏の野菜といえば？と、イメージを膨らますために、大きなスクリーンやタブレットで写真や映像を見てもらいました。その中から、手を挙げてもらったり、写真をじっと見つめる姿や体が動かすようす、日頃の好きなものからも気持ちをくみとり選んでいきました。そして今年は、茄子、トマト、きゅうり、ピーマン、さつまいも、スイカを植えることに決まりました。

野菜が決まれば、苗の準備です。ホームセンターへ利用者数名が代表で行き、実際に野菜の苗の写真を見て気に入ったものを選びました。畑に植える際は、車椅子から降りて靴の上から土の感触を感じたり、手で植える時の葉や土の感触に驚く方もいました。天気の良い日は、散歩がてら水やりを行い、花や小さな実ができると、手で触れて感触を確かめました。同時に野菜のプレートづくりも行い、実をつける野菜を想像しながら、わくわくした気持ちで成長を待ちました。



そしていよいよ収穫です。皆さんのお世話おかげで、沢山の野菜が実をつけました。特にスイカは、大きくずっしり重たく、膝に乗せたり手で持ち上げ、「大きいなあ！」と驚いた方、



じーっと見つめ不思議そうな表情の方もいました。次はお楽しみの試食ですが、その前に夏の風物詩スイカ割りにも挑戦です。周りからの「右！もっと強く！」と声援を聞きながら、なかなか割れない丈夫なスイカができたことに皆で喜びました。採れたてのよく冷えたスイカは、そのまま食べたりジュースで堪能し、皆さん「おいしい！」と自然とニッコリ笑顔になっていました。他の夏野菜も新鮮なまま、昼食で皆さんに味わっていただきました。

皆で相談し、成長過程を見守り収穫する。貴重な経験と楽しい夏の思い出になりました。



かしのきの里

支援員 栗岡 由実

かしのきの里では、地域と交流し、相互理解を促進する機会として「ふれあいのタベ」を毎年開催していました。しかし、新型コロナウイルスの影響で、令和2年度から令和4年度の3年間は中止となり、その間代替事業として、地域の子ども向けに少人数での「夏休み陶芸教室」の実施や「かぶとむしの無料配布」などを行いました。

今年度、新型コロナウイルス感染症は5月に5類感染症に移行されましたが、飲食なし、模擬店なし、マスク着用を原則として感染症対策に気を配りつつ、一堂に会しての地域交流事業の再開を目指しました。職員間で内容の検討を重ね、従来のふれあいのタベは中止し、「かしのきの里 夏まつり」として7月22日に開催しました。



ステージ企画では、咲夢麗衣のよさこい踊りで、園庭で利用者や子どもたちも一緒に思いっきり踊り、大盛り上がりとなりました。リーダーから「久しづびに帰ってきたで！」とあいさつがあり、利用者からも声が上がりました。大道芸人Mr. チョッププリンのステージではマジックや人間風船などユーモア溢れる芸を披露していただきました。

ステージ以外の企画では、子ども対象の陶芸教室、中学生以上の方対象のCPR（救急救命）講習を開催し、大人も子どもも参加ができるようにしました。また、ボランティアで来ていただいた飾西高校の生徒さんが特技のジャグリングを披露していただく場面もあり、たいへん盛り上りました。

ゲームコーナーでは、ヨーヨー釣り、ペットボトルを使ったピンポン玉ゲーム、ダンボールフリスビーなど、資源ゴミを活用したゲームを中心とし、子どもたちに楽しんでいただきました。

最後にはかぶとむし抽選会を行い多くの子どもたちにかぶとむしを持って帰っていただき、大盛況のうちに幕を閉じました。



ルネス花北成人部事業所一覧

姫路市立 障害者支援センター（多機能型）

〒670-0804 姫路市保城 309 番地 1

TEL 079-282-2384

FAX 079-224-6751

就労移行支援

就職訓練班

自立訓練

自立訓練班

就労継続支援B型

喫茶班「café ぴあのぴあ～の」「café あっと・ゆ～る」「ふれあい」
製菓班「クッキー工房 桜の詩」・洗車班・作業第一班

生活介護

軽作業班・個別作業班・活動班

姫路市立 かしのきの里（多機能型）

〒671-2246 姫路市打越 1352 番地 6

TEL 079-267-0202

FAX 079-267-0445

就労移行支援

就労移行班

就労定着支援

クリーン作業・陶芸班

生活介護

姫路市立 書写障害者デイサービスセンター

〒671-2203 姫路市書写台二丁目 7 番地 1

TEL 079-267-2636

FAX 079-267-2794

生活介護

姫路市立 広畠障害者デイサービスセンター

〒671-1116 姫路市広畠区正門通三丁目 2 番地 2

TEL 079-239-1888

FAX 079-239-1898

地域活動支援センターⅡ型

姫路市立 在宅障害者デイ・サービスルーム

〒670-0804 姫路市保城 309 番地 1

TEL 079-282-2384

FAX 079-224-6751

障害児・者一時保護施設

姫路市立 障害者やすらぎルーム

〒670-0806 姫路市増位新町二丁目 37 番地

TEL 090-2598-9237

FAX 079-224-3173

体育施設

姫路市立 障害者体育館

〒670-0806 姫路市増位新町二丁目 37 番地

TEL 079-288-7122

FAX 079-224-3173

就労継続支援A型

あぼしリサイクル事業所

〒671-1236 姫路市網干区網干浜 4 番地 1 エコパークあぼし内

TEL 079-273-8889

FAX 079-273-8870

相談支援事業所

ぱっそ・あ・ぱっそ

〒670-0955 姫路市安田三丁目 1 番地 姫路市総合福祉会館 2 階

TEL 079-240-6702

FAX 079-240-6705

ゆうあいだより No.183 令和 5 年 (2023 年) 11 月 20 日発行

発 行 姫路市総合福祉通園センター成人部

編 集 「ゆうあいだより」編集係